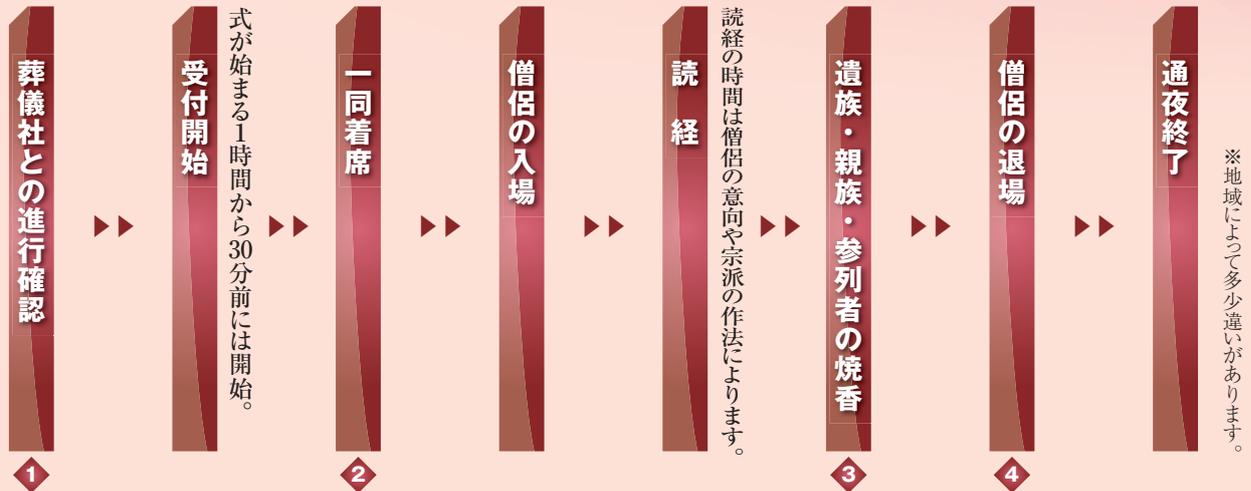


かつて通夜は、夜を徹して故人に付き添うのが習わしでした。現在は、2時間程度で終了する通夜が一般的となっています。また、都市部では葬儀・告別式より通夜に参列する方が多くなっています。

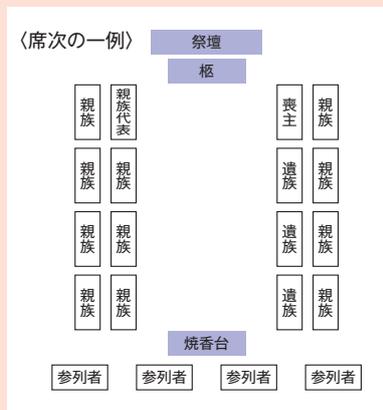
●通夜の流れ



1 葬儀社との進行確認

通夜を行うにあたり、受付の段取りや供花・供物、席次、焼香の順序など確認しておきましょう。また進行や喪主の役割など分からないことがあれば、ここで聞いておきましょう。

2 通夜・葬儀の席次について



形式によって異なるので、確認が必要です。

本来は喪主が柩に近いところに座り、次に遺族、親族という順になります。焼香台に近い方から順に座る場合もあります。祭壇に向って座るなど

3 焼香の順序について



まず、遺族の焼香から始まると、喪主から故人とつながりが深い順に行います。部屋の広さや形式・規模によっては、回し焼香を行う場合もあります。次に参

列者の焼香です。遺族は参列者に対して、目礼であいさつをします。

4 僧侶へのもてなしについて



僧侶が到着したら控室に案内し、あいさつをされるとよいでしょう。通夜が終わったら再び控室に案内し、お礼のあいさつをします。なお、お布施・お車代は通

夜が始まる前、または葬儀が終わってから渡すのが一般的ですが、地域や僧侶によって違いがあります。



日産労連の「葬儀共済」

「葬儀共済」とは、万一の際に、全国共通の葬儀の基本セットを低廉かつ明瞭な金額でご提供し、電話1本で全国の加盟葬儀社をご紹介させていただく制度です。

●制度運営会社 (株)全国儀式サービスのホームページ

●スマホ・携帯版ホームページもあります!

全国儀式サービス 検索  
http://www.gishiki.co.jp

ユーザー名: gishiki  
パスワード: members

葬儀支援サービスの内容や全国の加盟葬儀社・斎場が検索できます。

葬儀のご手配、事前のご相談

24時間365日対応

フリーコール 0120-421-493